

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「教師のまなざし」

○共感的な見方（子どもの見方を変えて、味方になる）

子どもは、自分のことを愛してくれているかどうか、自分の味方かどうか、ということに敏感に感じる力があります。子どもの思いを受け止め、共感的に関わることが大切です。

### 「同じ子どもの行動を見て」

【例1】

教師A：思ったことを素直に言えない子どもだなあ。

いつも友達の後ろからばかりついていって依頼心が強い子だなあ。

教師B：おとなしくて慎重で控えめな子どもだなあ。

いつでも友達と仲良くしていきたい、一緒にいたいと思っている子どもだなあ。

【例2】

教師A：消極的で暗くて、はきはきしない子どもだなあ。

協調性がなく、取っつきにくい子どもだなあ。

教師B：調子に乗らず、冷静で絵落ち着いている子どもなんだなあ。

冷静で物に動じないおっとりしている子どもだなあ。



子どもの行動を、A先生は問題行動や短所として捉えています。B先生はそれを個性や長所として捉えています。大切なのはB先生のように共感的な見方をする事です。見方が変われば、子どもの実態も変わります。自分の見方や対応の仕方を変えることで、子どもとの関係を変えることができます。「子どもができない、悪い」ばかりでなく、「教師が変われば子どもも変わる、教師が変わらなければ子どもも変わらない」のです。共感的な関わり方の第一歩は、子どもの見方を変え、子どもの思いを受け止めることです。子どもを肯定的に見つめる「優しいまなざし」をもちましょう。

～障害のある子どもの声～

「私にとって最も辛いことは、みんなができることができないことではなく、できない気持ちを分かってもらえないこと」

「僕は人に伝えることができる以上のものを感じられる。一番感じるのは、あなたが「僕にできる」と思っているかどうかだ。



とれたて直送便



「どのような言葉を入れましたか？」

通信No.60で、「保護者は（ ）の数だけ幸せになれる」の（ ）にどのような言葉を入れますか？という夏休みの宿題を出しました。読者から寄せられた言葉を紹介します。

子どもの笑顔、素敵な先生との出会い、正しい情報、子どもをほめた回数、支えてくれる人、話を聞いてくれる人、子どものよさを伸ばしてくれる人、味方になってくれる人などでした。（ ）に入れた言葉を実現できる保護者支援を心掛けましょう。

ところで、あなたは（ ）の数だけ幸せになれますか？